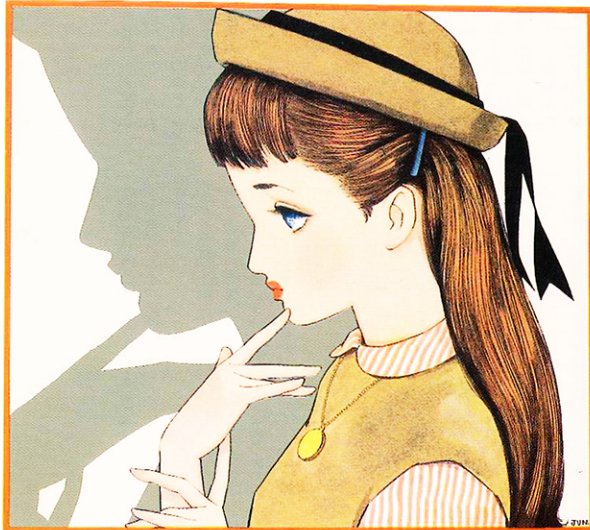


淳一文庫

JUNICHI BUNKO



5月1日、全5巻7冊同時発売!

国書刊行会



もしこの世の中に、風にゆれる「花」がなかったら
人の心はもともっと、荒んでいたかもしれない。
もしこの世の中に「色」がなかったら、人々の人生
観まで変わっていたかもしれない。

もしこの世の中に「信じる」ことがなかったら、一
日として安心してはいられない。

もしこの世の中に「思いやり」がなかったら、淋し
くて、とても生きてはいられない。

もしこの世の中に「小鳥」が歌わなかったら、人は
微笑むことを知らなかったかもしれない。

もしこの世の中に「音楽」がなかったら、このけわ
しい現実から逃れられる時間がなかっただろう。

もしこの世の中に「詩」がなかったら、人は美しい
言葉も知らないまゝ、で死んでゆく。

もしこの世の中に「愛する心」がなかったら、人間
はだれもが孤独です。

中原 淳一

淳一文庫について

女性の美しさと夢のある生活を創ることに生涯を捧げた中原淳一。その名前は、ある世代の人々にとっては郷愁であり、ある人々にとっては絶対であり、そして二十一世紀を担う若者達には未知のものであるかもしれません。けれども彼が創り上げた世界を、今一つ一つ振り返ってみた時、私達はそこから、世代を越えて、時代を越えて、常に忘れてはならない普遍の精神を教えられた思いがします。物質的には豊かでありながら、精神的な潤いが少なくなっているように思われる現代に生きていくからこそ、私達はもう一度、中原淳一の語りかけに耳を傾けたいと思うのです。

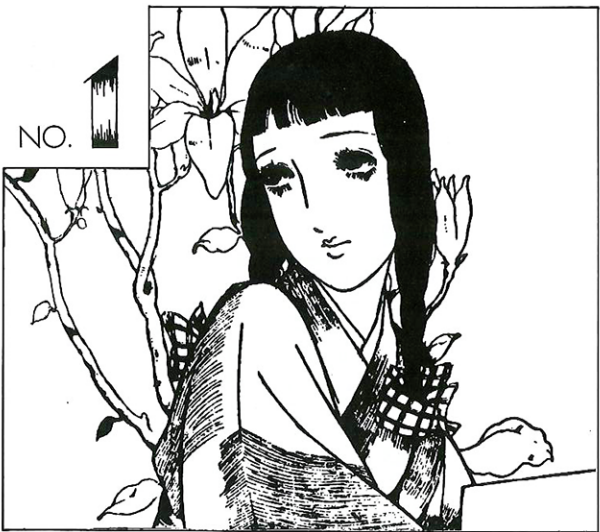
「淳一文庫」はそんな願いを込めて生まれました。

昭和十年代から五十年代にかけて、中原淳一の選した仕事は膨大ですが、その一つ一つが緻密で、神経がゆき屈いており、情熱が溢れています。それを損うことなく、一つずつ魅らせて、新たなシリーズとして毎月皆様のお手元にお届けしようというのが、この「淳一文庫」です。挿画はもとより、編集、出版、詩、音楽、ファッション、インテリア、人形、附録など、多方面に亘って発揮された才能を片寄ることなく取り上げ、文字を新字

新仮名に改めたり、サイズを大きくして読みやすしたりという工夫をして、復刻というよりも新しい本として出版してまいります。
どんなに時代が移り変わろうとも、美しいものを愛する心や、人を愛する気持ち、潤いのある生活を求める思いは変わるものではないと思います。中原淳一の提唱をもう一度広く世に問い、夢を思っかせていくことが、「淳一文庫」の願いです。

第一期の今回は、皆様からのご要望が特に強かった、吉屋信子作「花物語」、川端康成作「乙女のお姫さま」をはじめ、淳一の編集による「名作絵物語」と「七人のお姫さま」、そして「ひまわり」での連載を一冊にまとめた「宝塚物語」の全五巻七冊をお送りします。第二期には読み物以外のものも予定しています。当時を知る方はもちろん、若い方達にも是非ご愛蔵頂きたいシリーズです。

監修 中原淳二



花物語

吉屋信子
淳一文庫

返らぬ少女の日の ゆめに咲きし花の かずかずを
いととき君逢へ おくる

「花物語」第一巻のはじめにはこう記されています。吉屋信子が一つの花に一つの物語をつけて雑誌に投稿を始めたのは、大正四年、二十歳の時のことでした。その最初の一編「鈴蘭」が少女画報に採用されるや大好評となり、少女達の圧倒的な共感を得て、大正十三年までに五十二篇が発表されました。

タイトルの花々のように、美しい個性きらめく少女達が織りなす世界。中原淳一がこの物語に絵をつけたのは、昭和十二年から十四年の「少女の友増刊号」への再録部分でした。淳一の挿画を得て新しい世代の少女達の心もつかんだこの不滅の名作は、今も変わらぬ新鮮さで思っています。

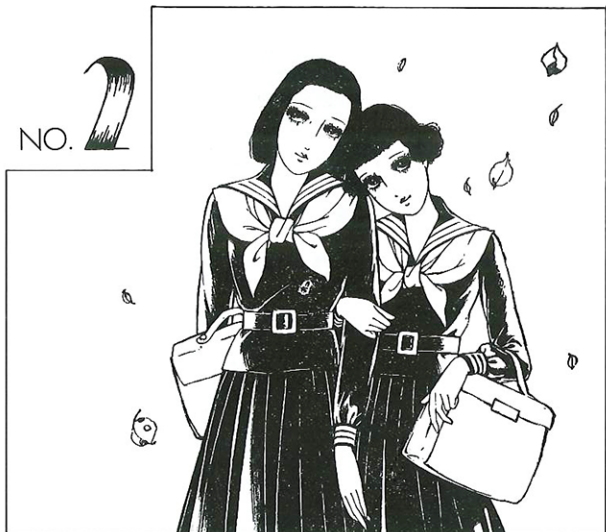
今回の復刊は、中原淳一装丁による昭和十四年版全三巻を底本とし、「少女の友」連載時の淳一の挿画を取録いたしました。花の絵に飾られた珠玉の短編集を二一読下さい。

全三冊、定価■各一、八〇〇円

……不意に背の高い瘦せたひとが近寄ってきた。ネイビー・ブルウの封筒を手渡して、「ごめんない、あとでね……」いそいで曲り角へ消えてしまった。教室へ入り、机の中をあけると、教科書の上に、紫インクで書かれた、真白な封筒がひとつ……。三千子は、いちどきに両手を引っばられたように感った。

同時に二人の上級生から愛され、その間で気持ち揺れ続ける三千子。横浜の女子校を舞台に少女達の可憐な世界を描き、友愛とは何かを追求した川端康成少女小説の傑作で、著者の希望により当時二十三才の中原淳一が挿画を担当、これを皮切りに以後この二人のコンビによる少女小説が次々と発表され、話題をまきました。

昭和二十一年にひまわり社より刊行された、淳一の装幀によるB5判の大きなサイズの単行本を当時のままに再現し新たに昭和十二年から十三年の「少女の友」連載時の挿画を収録。若い世代にも楽しんでいただけるよう、文字使いも新字新カナに改めました。淳一の絵に彩られた詩情あふれる川端文学の世界をお楽しみ下さい。 定価■二、三〇〇円



宝塚物語

葦原和子

釜山の浜辺で、「家なき子」をゆめみたミツ子も、今はこうした舞台の主役をやるまでに成長したのです。その名も有馬稲子と呼ばれるミツ子……。

本書は、昭和二十六年から二十七年の「ひまわり」に連載された「宝塚エピソード」全十八章を一冊の本にまとめたものです。当時の連載は中原淳一の発案により、葦原邦子が淳一の意向をくんで始めたもので、毎回宝塚のスターを一人ずつとりあげ、時にはインタビュを交えながら生いたちやエピソードが物語風に綴られています。登場するスターは、八千草薫、春日野八千代、水原節子、鳳八千代、浅茅しのぶ、浦島歌女、瑠里豊美、淀かおる、梓真弓、寿美花代、南風洋子、古雅典美、南悠子、故里明実、大路三千緒、千代かほり、日下輝子、真咲みのる。挿画は不破俊子、中原淳一が担当し、淳一の渡仏を機に後半は玉井徳太郎が引き継いだものを、当時のままに収録しました。

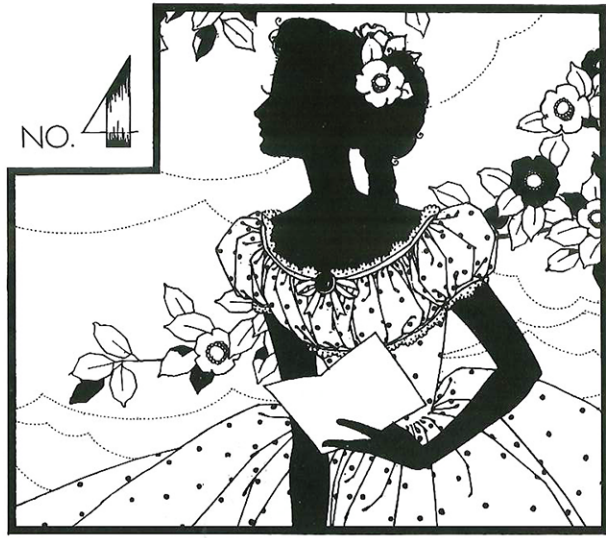
単行本として刊行するにあたり、文字を新字新仮名に改めA4判という大きなサイズにして読みやすく新編集致しました。「ひまわり」の連載を通して読める希望の第一弾！

定価■二、六〇〇円





NO. 5



NO. 4

名作絵物語 中原淳一

昭和三十年代の「それいゆ」「ジュニアそれいゆ」には、世界文学の名作や童話、オペラ等のダイジェスト版が中原淳一の挿画で数多く掲載され、たいへんな人気を呼びました。「童話」というのは幼い頃にただ面白いとか可哀そうだとか思うだけで読み過してしまふことが始んどが、大人になつて読み返してみると人生の機微の深さを考えさせられる感動的な内容のものも多く、名作といわれる作品も、題名を知っているだけで読む機会もなく過ぎてしまふ人が多いので、せめてダイジェストでも若い時期に読んで、そこに描かれている本当の内容をつかみとつてほしい」という中原淳一の願いがこのシリーズを生み出したのです。

本書はその中から「あしながおじさん」「蝶々夫人」「イノック・アーデン」「赤毛のアン」「白鹿姫」「たけくらべ」「小公女」「椿姫」「カルメン」「白鳥」「妖女の森」「母」「人魚のお姫さま」の十三篇を一冊にまとめ、昭和三十五年にひまわり社から刊行されたものです。再刊にあたってA4判変型という大きなサイズに改め、絵も字も大きく読み易いものになりました。文章は中原淳一、松田信子、高英男、城夏子を担当。各頁に挿絵を中心とした美しい挿画が満載されています。

定価 ■二、四〇〇円

名作絵物語 中原淳一

昭和四十三年に、病床にあつた中原淳一が描いた童話集で、「人魚姫」「白雪姫」「親指姫」「雪姫」「白鹿姫」「シンデレラ姫」「ポストマニ姫」の七篇が七十枚の挿絵で綴られた、大人向けの美しい絵本です。

七人のお姫さまが七人七様にいろいろな運命にもてあそばされ、それぞれの道をたどっていく姿は、物語とはいえ、私たちの人生とひきくらべても何の変わりもなく運ばれていき、胸をうつものがあると、淳一は語っています。童話を子供のためのものとして片付けず、人生の機微を知った大人にこそ読んでほしいと提唱する淳一の大人たちへのメッセージともいえる本書は、医師から危険信号をいひ渡された中で淳一が情熱を注いだ力作で、凄絶なまでの挿画の美にはドキッとするほどの迫力があります。

「名作絵物語」と同じく、刊行時よりひとまわり大きなA4判変型サイズにしてお届けします。「名作絵物語」と共に、大人は大人の物語として、子供達には子供の物語として、年代を問わず手にしていただきたい絵本です。

定価 ■三、三〇〇円

皆様と編集部を結ぶページです。

今回は、昨年復刻出版された「ひまわり」に寄せられた愛読者カードの中から皆様の声をご紹介いたします。

★かわい箱をあけたとたん一気にな少女時代に逆戻り。頁をめくるうちに、美しい絵と共に色々な思い出がよみがえり、興奮を押えきれませんでした。(東京・杉並区 T・N 48才)

★涙が出るほどうれしく大事に大事に読んでいます。それにしては少女の雑誌としては程度が高く、読んでいるに驚いています。(北九州・小倉南区 M・F 50才)

★すばらしい本だと思います。敗戦後の日本で、若い少女達に考えられる限り一杯の未来を与えようとした心を感じて、愛と良識ある人々が存在していたことを知って胸を打たれたと共に、今日の出版界との差をあらためて思い知らされて、今の若い人達の気の毒でなりません。

お金儲けの目的ではなく、どうしたら皆で幸せな社会をつくらせて行けるか、えらぶるのではなく、ひたすら素直に、誠実に、いつもこのことを心に置いて生きていような、そんな人の手によって作られた本がほしい。

(東京・東村山市 Y・N 26才)

★文章の純粋さ、絵の美しさに完全に夢中です。私は母について二代目「ひまわり」ファンです。幼い頃、マンガを読んでいると、「あなたたちに「ひまわり」を讀ませてあげたいわ」と言われておりました。「ひまわり」に連載された少女小説を単行本として出版していただくわけにはいかないでしょうか？

(神奈川・鎌倉市 E・T 22才)

★「ひまわり」より私は少し前の年代なのですが、戦後美しい物への憧れ、夢をみごとに表現し、宝物にでもしたてしようこの本。そして、なんと品のある本だったか、美しさの中に品のある少女雑誌、今ほしいものはそれ。

(茨城・水戸市 K・N 45才)

★この本を手にしてとても満ち足りた気分です。イラストは本当にすばらしい。中原先生の文章は絶品です。

(埼玉・熊谷市 M・M 26才)

★なくしたものが見つかった時のような感動。秘密の箱に込める想い出には、ほのかな香気がたどって幸福です。

(神奈川・小田原市 S・T 52才)

★淳一先生の影響は、考えている以上に深く少女達の心にしみわたっているのを感じます。スタイル画が現在見ても古くないのには驚きました。

(東京・杉並区 K・H 44才)

淳一先生の美しい本は 読むだけでなく 飾るものだと教えてくれた——内藤ルネ

画家であり、ファッション・デザイナーであり、人形作家であった先生はまた、ブック・デザイナーとしてもトップを行く人だったのだと今さらながら考えさせられる。

戦後すぐに出た、赤いレザーベーパーの豆本スタイルの「A B C 絵本」、やはり同じレザーベーパーのぐんぐん大型の「乙女の港」、真四角の文庫本の数々を初めて見た時のときめきは何にとえたらよいのだろう。まったく何もない灰色の世相の中で、淳一先生の本は他の本を断然ひき離し、奇蹟のようにゆつたりとたつぷりと何物よりも豪華でリッチだった。その本があるだけで自分のセンスが磨かれ、生きている楽しさが生まれ、華麗な夢が見られた——と言っても過言ではないだろう。

これらの淳一先生の本は、とりだして見るたびに昨日出版されたかのような新鮮な魅力を増し、ダイヤモンドの輝きを見せ始めたように私は思われる。それはちょうど大正時代に数多く出版された竹久夢二の本が永遠不変の魅力を持ち続けているのと同じように——。

(画家・デザイナー)

(大阪・堺市 T・T 19才)

★私より、母にとってなつかしい「ひまわり」ですが、現代の殺伐とした空気の中、ぜひ我が子にも見てもらいたい本です。長い時間を経ても、色あせることなく淳一先生の言葉は心を打ち、描かれた少女は永遠です。(東京・港区 A・T 35才)

この他にも多数のお便りを頂き、ありがとうございました。

「淳一文庫」は、愛読者カードに寄せられた、「ひまわり」の連載をとびとびでなく全部読みたい、淳一の絵と文章にもっと触れたい、附録の復刻を……等、たくさんのご要望にお応えして、淳一の仕事を一つ一つ単行本にまいります。皆様のご希望、ご感想をお寄せください。お便りお待ちしております。



◆中原淳一なつかしの少女雑誌◆

いまわり

田辺聖子監修



日本の全土が焼け野原と化した終戦直後、その中から一本のひまわりが、くつきりと花を咲かせた。「どのような時でも、女性は今も心も美しくあるもの」……本書は、戦後の少女雑誌の原点『いまわり』六年間全六七冊の全容を展望できるように折々の傑作号八冊と付録を精選、色彩・内容も当時のままに忠実に再現、復刻したものです。

揃定価 28000円(分売不可)

発行によせて

佐藤今朝夫

中原淳一は、昭和七年、当時の乙女たちの人気雑誌「少女の友」に挿画家としてデビュー、以来その七十年の生涯を閉じるまで、半世紀に亘って女性の美を追い求め燃焼した。その間、「それいゆ」「ひまわり」、ジュニアアソレいゆ「女の部屋」を創刊。数多くの作品に少女たちの小さな心を限りなく描きつづる挿画家を描き続けるかたわら、詩、ファッション・デザイン、インテリア、人形など多方面に独特な美の世界を創り出していった。

昭和五十九年秋、小社が雑誌「いまわり」を復刻出版したところ、予想を越える多くの読者から熱いご支持が寄せられ、感動の輪は水深を測れぬほど広がっている。淳一の足跡は時を越え、美を求めあこがれる乙女たちの前に永遠なのである。

「淳一文庫」はこうした読者の熱い要望に応え、中原淳一の創り出した美の世界の再現をめざして生れ出すものである。この文庫には淳一が挿画した川端康成や吉屋信子の作品、それに絵物語、スタイルブック、カルタ、絵はがき等それぞれ別のジャンルで名作の誉れ高きものを収録、全百巻をめざす心構えである。その向うには、淳一のめざしていた「美の本質」の答えがある」と信じている。

(国書刊行会・代表取締役)

後記

この小冊子は、これから刊行予定の「淳一文庫」を皆様にご紹介すると同時に、より良い「淳一文庫」を今後とも刊行していくために、読者の皆様とのコミュニケーションの場として用意したものです。

女性の暮らし全般にわたり、潤いのある生活を追求し続けた中原淳一の世界を紹介していくという仕事は、果てしない道を追求していくにも似た気持ちがいえます。第一期五巻はいずれも珠玉の名篇というにふさわしい内容のものばかりですが、まだまだ淳一のかもし出す美の世界は無数にあります。ひまわりらいぶらりい、スタイルブックの数々、「少女の友」の付録など……。

ここにご紹介する第一期「淳一文庫」が、多くの皆様にご満足いただけることを願うと共に、今後も皆様の御意見、御要望に基づき、より内容豊かな「淳一文庫」を創っていきたくと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

淳一文庫

No.1	花物語 上・中・下	各1,800円
No.2	乙女の港	2,300円
No.3	宝塚物語	2,600円
No.4	名作絵物語	2,400円
No.5	七人のお姫さま	2,200円

《5月1日(水)、同時発売》

★お申込みはお近くの書店又は直接当社へ御用命ください。

国書刊行会

〒170東京都豊島区巣鴨3-5-18

TEL:03(917)8287(代)

振替 東京5-65209番

一冊ずつでも全冊セットでもお求め頂けます。
お申込みの折には書名・冊数をご明示ください。